

環境活動目標と評価

2002年度環境活動目標と評価

2002年度に取り組んだ主な環境活動目標と評価は次の通りです。
 なお、年度推移等の詳細データは各項データをご覧ください。

：達成 ×：未達成・改善努力要

活動目標	目標値	目標年	2002年度		掲載頁
			目標	評価	
売上高エネルギー原単位の削減 (1)	20%削減(基準年度1990年)	2010年度	1990年度比 86.8%	×	P6
廃棄物の最終処分量削減	80%以下に削減(基準年度1998年)	2005年度	1998年度比 88%		P7
	70%以下に削減(基準年度1998年)	2010年度			
化学物質排出量の削減	「禁止物質」(2)の排出量全廃	2005年度	排出量削減対象物質 選定と削減量計画策定		P9
	「削減物質」(2)の排出量15%削減(基準年度2000年)	2003年度			
	「削減物質」の排出量30%削減(基準年度2000年)	2005年度			
エコグリーン化など、環境配慮型製品化率の向上 製品の省資源・省エネ率向上 プラスチック屑・銅屑のリサイクル率の向上 鉛など有害化学物質の削減	エコグリーン化率 90%(3) 光・情報システム関連機器省エネ製品化率 50% など	2002年度	エコグリーン化率 90% 光・情報システム 関連機器省エネ製品 化率 50% など		P13
アセスメント基準に適合した環境適合製品の拡大と日立グループ環境情報表示制度への登録推進	適用率 60%	2003年度	適用率 30%		P16
六価クロム・鉛・カドミウム・水銀 PBB・PBDEの使用廃止	使用廃止(顧客仕様品は除く)	2004年度	廃止に向けた推進		P17

- (1) 売上高には、製品に含まれる銅の価格を差引いたゼロベース売上高を使用しています。
- (2) 日立自主管理化学物質の区分によります。また、排出削減対象物質には「禁止物質」「自主削減物質」も含まれます。
- (3) エコグリーン化率とは、対象とした製品群の中で環境配慮型としての開発を終えた製品の占める割合を言います。

2003年度環境活動目標

2003年度からの環境活動目標を次の通り制定しました。
 地球温暖化防止の目標として、2003年度からは従来のエネルギー原単位削減目標に変えてCO₂排出量削減への取り組みを始めました。また、ゼロエミッションへの取り組みとして、最終処分量5%以下を新たに目標として決めました。

項目	活動目標	目標値	目標年
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量の削減	3%削減(基準年度1990年)	2005年度
		7%削減(基準年度1990年)	2010年度
廃棄物の削減	廃棄物の最終処分量削減	80%以下に削減(基準年度1998年)	2005年度
		70%以下に削減(基準年度1998年)	2010年度
	ゼロエミッションへの取り組み	最終処分量 5%以下(4)	2005年度
化学物質削減	排出量の削減	「禁止物質」の排出量全廃	2005年度
		「削減物質」の排出量15%削減(基準年度2000年)	2003年度
		「削減物質」の排出量30%削減(基準年度2000年)	2005年度
環境に配慮した製品	アセスメント基準に適合した環境適合製品の拡大	適用率60%	2003年度
	六価クロム・鉛・カドミウム・水銀・PBB・PBDEの使用廃止	使用廃止(顧客仕様品は除く)	2004年度
グリーン調達の推進	購入品原材料・部品について 含有化学物質把握と有害物質削減	RoHS対象製品	2003年度
		その他の製品	2005年度

- (4) 最終処分量率 = $\frac{\text{最終処分量}}{\text{有価物・廃棄物の総発生量}}$
 最終処分量率実績は、サイトによって大きく異なります。最終処分量率が最も大きいサイトであっても5%以下とするよう取り組みます。